

絵本の挿絵が4歳児の共感性に及ぼす影響

—印象の異なる2種類の絵本を用いた読み聞かせによる検討—

若山 育代・表 祐未*

The Effects of Illustrations of Picture books on Four-year-old Children's Empathy

: Comparing the Two Types of the Picture Books

Ikuyo WAKAYAMA and Yumi OMOTE

E-mail: wakayama@edu.u-toyama.ac.jp

[摘要/Abstract]

The purpose of this study is to examine the effect of the two types of illustrations of "the wolf and the seven little goats" on four-year-old children's empathy. An experimenter read the "the wolf and the seven little goats" which had cute illustrations and the one which had realistic illustrations to four-year-old children. The major finding was that the four-year-old children who enjoyed the realistic one were more empathic than the children who enjoyed the cute one. This result suggested that preschool teachers should pick the picture books which have the appropriate illustrations to develop children's empathy.

キーワード：絵本, 挿絵, 4歳児, 共感性

keywords: Picture books, Illustration, Four-year-old, Empathy

I はじめに

絵本は、保育所や幼稚園に欠かせないものである。これは、絵本が幼児期の子どもの共感や想像などの思考を活性化させる、教育的意義の強いものであるためである(古屋, 1996)。このことは、幼稚園教育要領の領域「言葉」における内容の取扱いにも次のように記されており、絵本が幼児期の子どもの発達において重要な役割を担っていることがわかる。すなわち、「絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること(文部科学省, 2008)」である。

ところで、幼児が絵本を読み聞かせられることによってどのような思考を巡らせるかは、その絵本がどのようなメッセージを伝えるものであるかによって異なる(古屋, 1996; 高橋, 2006)。たとえば、絵本『裸の王様』には、真実を正直に話すことの重要性がメッセージとして込められている。そのため、

この絵本を読み聞かせられた子どもたちは、そのメッセージを受け取り、道徳的、規範的思考を働かせることが考えられる。また、たとえば、絵本『大きなカブ』では、仲間と協力して物事を解決することの喜びや達成感が子どもたちに伝えられる。そのため、この絵本を読み聞かせられた子どもたちは、協調的な思考を働かせることになるだろう。

このように、絵本に含まれるメッセージが異なることで、聞き手である幼児が巡らせる思考もまた異なるのであれば、保育現場では、保育のねらいに応じてどのような絵本を子どもに読み聞かせるかを慎重に検討する必要があるだろう。近年では、他者の視点に立ったり思いやったりする共感性を、幼児期から育成することが強く求められている(浅川, 1993; 田中・岩立, 2006)。こうした保育をめぐる現代的課題を踏まえると、幼児の共感性を育む絵本を明らかにすることが求められているといえる。

こうした時代のニーズに応じ、共感性を育む絵本を選択する際に参考になる研究として、中澤・中道・大澤・針谷(2005)のものがある。中澤ら(2005)は、絵本のメッセージだけでなく、絵本の挿絵もまた、幼児の思考過程に影響を及ぼす重要な要因であ

*社会福祉法人 射水福祉会 いみず苑

ることを明らかにしている。中澤ら(2005)によると、“かわいい”印象をもたれる挿絵の『三匹のくま』と、そうでない印象をもたれる『三匹のくま』のいずれかを5歳児に読み聞かせたところ、後者の『三匹のくま』のほうで、幼児の物語理解が促進され、想像が広げられることが明らかになった。つまり、挿絵が幼児の物語理解を促す重要な要因であること、また挿絵の印象が異なることによって、聞き手である子どもは、それぞれ異なる思考を巡らせることが示唆されるのである。このことから、幼児の共感性を育むためには、絵本に含まれるメッセージが幼児の共感性を誘うものであれば十分なのではなく、そのために効果的な挿絵があるということになる。

以上述べてきたように、絵本の挿絵が異なることで、幼児の共感性の働き方には違いが生じると予想される。しかし、中澤ら(2005)の研究では、絵本の挿絵が幼児の物語理解に影響を及ぼすことは明らかにされているものの、どのような挿絵が幼児の共感性を育むものであるのかは明らかにされていない。

そこで本研究では、子どもの共感を誘う絵本の一つである『オオカミと七匹の子ヤギ』を取り上げる。この絵本を取り上げる理由は、現在、この絵本が多く保育所や幼稚園、家庭で読み聞かせられていること、また、様々なタイプの挿絵があることである。

さらに、この物語は現代の幼児にとってなじみの深いものであり、この物語の内容を全く知らないという幼児が少ない。そのため、物語の内容を理解できたかできなかったかという違いによって、共感性が喚起されるか否かが左右される可能性が低い。異なるタイプの挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』を読み聞かせた際に、もしも幼児の共感性の反応が異なるとすれば、それは挿絵がもたらした影響としてとらえることができるだろう。

以上をふまえ、本研究ではまず、挿絵の印象が異なると思われる4冊の『オオカミと七匹の子ヤギ』を大学生に提示し、「全く異なる印象の挿絵」の『オオカミと七匹の子ヤギ』を2冊、選定する(調査1)。この調査1を行う理由は、中澤ら(2005)の研究が、研究者の主観的判断で対象絵本を選択していることを課題として捉えたためである。つまり、中澤らの研究では、“かわいい”印象を持たれる絵本とそうではない絵本を、研究の目的を理解している

研究者自らが判断したのである。こうした手続きでは、研究材料の信頼性が保たれにくいと思われる。こうした理由から、本研究では研究材料の信頼性を保つために、大学生に挿絵の印象を評価させる手順を取ることにした。

次に、選定した2冊の『オオカミと七匹の子ヤギ』を幼児に読み聞かせる。それにより、挿絵が異なることによって幼児の共感の仕方がどのように異なるのかを明らかにする(調査2)。これらの2つの調査を通して、幼児の共感性を育む挿絵を持った『オオカミと七匹の子ヤギ』を明らかにすることを目的とする。

II 挿絵の印象が異なる2種類の『オオカミと七匹の子ヤギ』の選定(調査1)

1. 目的

大学生を対象とし、挿絵の印象が異なる2冊の『オオカミと七匹の子ヤギ』を選定する。

2. 方法

- 1) 対象及び調査時期 保育士・幼稚園教諭免許取得のための授業を履修している大学生50名とした。調査時期は、2010年6月15日であり、調査時間は20分ほどであった。
- 2) 使用絵本 挿絵の印象が異なる4冊の『オオカミと七匹の子ヤギ』、A絵本からD絵本を取り上げた。A絵本は「平田昭吾(文)、井上智(絵)ポプラ社」(図1)、B絵本は「フェリクス・ホフマン(文・絵)、瀬田貞二(訳)福音館書店」(図2)、C絵本はドイツ語圏で発刊された『オオカミと七匹の子ヤギ』(図3)、D絵本は「スベン・



図1 A絵本



図2 B絵本



図3 C絵本



図4 D絵本

オッター(文・絵), 矢川澄子(訳) 評論社」(図4)であった。

3) 手続き 上述した4冊の『オオカミと七匹の子ヤギ』の表紙をカラー印刷して配布し、対象者である大学生に4冊すべての挿絵から受ける印象を評価させた。なお、4種類の表紙の印刷順序はランダムにし、提示される順番が印象へ及ぼす影響を少なくするように配慮した。

大学生が4種類の挿絵に対して抱く印象を評価する方法として、本研究では、5件法のSD法を採用した。質問紙中で使用した形容詞対は、大

橋・三輪・平林・長戸(1974), 鈴木・行場(2002), 大和田・阪(2007)を参考とし、絵本の印象評価に使用できるとされる28対を、筆者を含む5名で選択した。

3. 結果及び考察

1) 因子分析

形容詞対28項目について因子分析(主成分分解, バリマックス回転)を行った。固有地1.0以上で、因子解釈可能性から4因子解を選択した。どの因子にも負荷量が.40に満たない1項目を省いて、27項目により再度、主成分分解・バリマックス回転により因子分析した結果を表1に示す。

第1因子は、「快い-不快」, 「明るい-暗い」など13項目からなる。これらの形容詞対は、絵本の挿絵から受ける明るさや暗さに関するものであることから、「明るさ」と命名した。なお、「穏

表1 形容詞対の因子分析結果

項目	I	II	III	IV	h ²
第1因子<明るさ>					
1 快い-不快	.87	-.05	.14	.10	.80
2 かわいらしい-にこらしい	.83	.05	-.18	.20	.77
3 明るい-暗い	.82	.28	-.09	.18	.79
4 美しい-みにくい	.82	-.02	.20	.18	.74
5 きれい-きたない	.82	.10	.21	.14	.75
6 あたたかい-つめたい	.81	.10	-.09	.06	.68
7 陽気な-陰気な	.81	.22	-.24	.19	.80
8 親しみやすい-親しみにくい	.73	.29	-.16	.29	.72
9 やさしい-おそろしい	.72	-.26	-.19	.11	.64
10 華やか-わびしい	.71	.47	-.08	.16	.76
11 穏やかな-荒々しい	.59	-.54	-.11	.09	.66
12 新しい-古い	.57	.35	-.18	.23	.54
13 大人っぽい-子どもっぽい	-.54	-.26	.46	-.36	.69
第2因子<派手さ>					
14 騒がしい-ものしずかな	.13	.78	-.06	.11	.64
15 活発な-落ち着いた	.18	.77	-.01	.16	.65
16 濃い-薄い	.27	.68	.02	.20	.58
17 くどい-あっさりした	-.01	.67	.06	.02	.46
18 派手な-地味な	.54	.62	-.06	.20	.72
19 動的-静的	.02	.56	.32	.00	.42
20 力強い-弱々しい	-.01	.52	.29	.04	.36
第3因子<現実味>					
21 重厚な-軽薄な	-.11	.31	.62	.05	.49
22 深みのある-うわべだけ	-.11	-.08	.60	-.23	.43
23 迫力のある-ものたりない	-.16	.49	.59	.11	.62
24 現実的な-非現実的な	-.41	-.10	.42	-.28	.43
第4因子<単純さ>					
25 むずかしい-わかりやすい	-.36	-.21	.06	-.75	.75
26 複雑な-単純な	-.27	-.07	.19	-.74	.66
27 はっきりした-不明瞭な	.33	.39	.11	.44	.47
寄与率(%)	8.26	4.66	2.11	2.05	17.08
累積寄与率(%)	29.51	16.63	7.55	7.33	61.02

やかなー荒々しい」と「大人っぽいー子どもっぽい」の2項目は、それぞれ第2因子と第3因子にも高い負荷量を示している。しかし、これらの2項目は、第1因子を構成する項目として重要であること、絵本から受ける印象を差別化するために重要な項目と判断したため、採用した。

第2因子は、「派手なー地味な」、「力強いー弱々しい」など7項目からなる。これらの形容詞対は、絵本の挿絵から受ける派手さや力強さに関するものであることから、「派手さ」と命名した。なお、「派手なー地味な」の項目は、第1因子にも高い負荷量を示している。しかし、この項目は、第2因子を構成する項目として重要であること、絵本から受ける印象を差別化するために重要な項目と判断したため、採用した。

第3因子は、「重厚なー軽薄な」、「迫力のあるー物足りない」など4項目からなる。これらの形容詞対は、絵本の挿絵から受ける重みや現実感に関するものであることから、「現実味」と命名した。なお、「迫力のあるー物足りない」と「現実的なー非現実的な」の2項目は、それぞれ第2因子と第1因子にも高い負荷量を示している。しかし、これらの2項目は、第3因子を構成する項目として重要であること、絵本から受ける印象を差別化するために重要な項目と判断したため、採用した。

第4因子は、「はっきりしたー不明瞭な」、「複雑なー単純な」など3項目からなる。これらの形容詞対は、絵本の挿絵から受ける単純さに関するものであることから、「単純さ」と命名した。

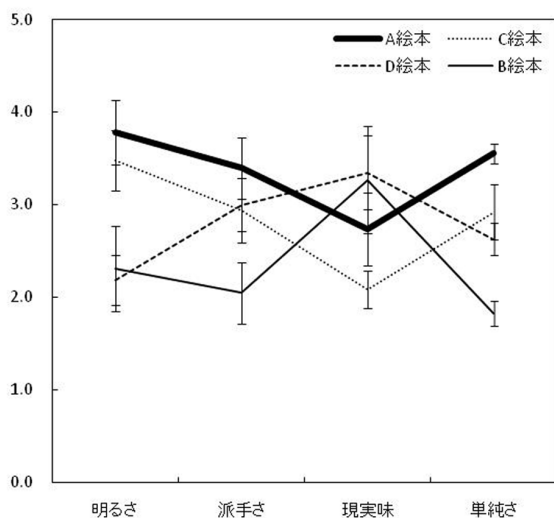


図5 各因子得点の平均値及び標準偏差

2) 挿絵の印象が異なる2種類の『オオカミと七匹の子ヤギ』の選定

続いて、AからDの4冊の絵本ごとに各因子の平均値及び標準偏差を算出した(図5)。この結果から、4冊の絵本のうち、因子ごとの平均値の現れ方が対照的なAとBの絵本を使用することに決定した。A絵本(図1)は明るさ、派手さ、単純さが高く、現実味が低い絵本であった。このことから本研究では、A絵本をアニメ風の挿絵の『オオカミと七引きの子ヤギ』と呼ぶ。一方、B絵本(図2)は現実味が高く、明るさ、派手さ、単純さの低い絵本であった。このことから本研究では、B絵本を写実風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』と呼ぶ。

III アニメ風と写実風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』が4歳児の共感性に及ぼす影響の検討(調査2)

1. 目的

調査1で選定した、アニメ風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』(図1)と、写実風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』(図2)を用いて4歳児に読み聞かせを行い、どちらの挿絵の絵本が幼児の共感をより働かせるのかを明らかにする。なお、本研究で4歳児を対象とする理由は、次のとおりである。4歳児は遊びの発達上、並行遊びの段階を脱し、幼児同士で関わりを持って遊ぶ連合遊びへと到達する年齢である(Parten, 1932)。こうしたことからこの年齢では、他者理解能力やコミュニケーション能力の芽生えを大切に育む保育を展開していくことが目指される(厚生労働省, 2008)。そのため、本研究においても、4歳児を対象とし、共感性を育む挿絵がどちらであるかを検討することとした。

2. 方法

- 1) 対象 T県内の2つの保育所の4歳児クラスを対象とした。アニメ風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』(以下、アニメ風絵本)を読み聞かせられた4歳児は26名であり、写実風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』(以下、写実風絵本)を読み聞かせられた4歳児は33名であった。
- 2) 絵本 アニメ風絵本と写実風絵本の文章を、国土社出版の『世界の名作全集、グリム童話集、ヤー

コブ・グリム、ウィルヘルム・グリム、高橋健二訳の「オオカミと七匹の子ヤギ」に統一し、挿絵の印象以外の影響が出ないように配慮した。

なお、この文章を2冊の絵本の場面に合わせて、筆者が修正を加えた。さらに、上述した文章と場面を一致させるため、アニメ風絵本も写実風絵本も、1ページ以上消去する場面があった。

- 3) 時期 2010年8月下旬と10月下旬の計2回とした。
- 4) 手続き まず、8月下旬にアニメ風絵本をA保育所の4歳児に、一方、B保育所の4歳児には写実風絵本を読み聞かせた。どちらの保育所でも、4歳児が読み聞かせられている様子をビデオカメラによって記録した。続いて、10月下旬に写実風絵本をA保育所の4歳児に、アニメ風絵本をB保育所の4歳児に読み聞かせ、同様の手続きをとった。
- 5) 分析材料 読み聞かせ中の対象児の発話を分析材料とした。対象児の発話記録を文字化し、2冊の絵本ごとに発話数および発話内容の比較を行った。

3. 結果

表2に、写実風絵本とアニメ風絵本を読み聞かせられている最中に4歳児が発した発話数の平均

表2 各絵本読み聞かせ中の4歳児の発話数(平均)

写実風絵本	アニメ風絵本
3.71	1.27

値を示す。この結果について、対応のないt検定を行った結果、写実風絵本を読み聞かせられた時と、アニメ風絵本を読み聞かせられた時では、写実風絵本を読み聞かせられた時の方が、4歳児の平均発話数が多いことが明らかになった ($t(46.586)=3.030, p<.01$)。

続いて、どちらの絵本が4歳児の共感性を刺激するかを明らかにするために、読み聞かせ最中の4歳児の発話内容をカテゴリー化した。その結果、4歳児の発話を8つのカテゴリーに分類することができた(表3)。

まず1つ目は、【説明する】である。これは「オオカミだよ!」「失敗した」など、絵本の登場人物や内容についての発言である。

2つ目は、【知らせる】である。これは「知っている」、「見たことある」など、絵本の内容について保育士に感想などを伝える発言である。

3つ目は、【驚く】である。これは、「わ!」、「えー!」など、驚きを示す発言である。

4つ目は、【尋ねる】である。これは、「オオカミだよね?」、「うそだよね?」など、絵本の内容について他児に尋ねたり、確認をとったりする発言である。

5つ目は、【他児の意見の受けとめ】である。これは、「うん、わかっとるよ」など、「尋ねる」に対応する発話である。

6つ目は、【なりきる】である。これは、「ガウガウ」など登場人物になりきってする発言である。

7つ目は、【語りかける】である。これは、「違う」、

表3 見出されたカテゴリー

カテゴリー名	定義	発話例
説明する	絵本の登場人物や内容についての発言	オオカミだ、失敗した、開ける、全部食べた
知らせる	絵本の内容について保育士に感想などを伝える発言	知ってる、見たことある、もう一回見たかったー
驚く	驚きを示す発言	わ!、え!
尋ねる	絵本の内容について他児に尋ねたり、確認をとったりする発言	オオカミだよね?、うそだよね?
他児の意見の受けとめ	「尋ねる」に対応する発話	うん、わかっとるよ
なりきる	登場人物になりきっての発言	ガウガウ
語りかける	登場人物に対しての発言	違う、だめだめ、うそうそ
否定する	絵本の内容や絵を否定をする発言	全然子ヤギじゃないじゃないか

「だめだめ」、「うそうそ」など、登場人物に対しての発言である。

8つ目は、【否定する】である。これは、「全然子ヤギじゃないじゃないか」など、絵本の内容や絵を否定する発言である。

これら8つのカテゴリーの出現率をアニメ風絵本と写実風絵本ごとに比較するために、絵本(2)×カテゴリー(8)の χ^2 検定を行った。その結果、絵本とカテゴリー間における出現率の差は有意であった($\chi^2(7, N=840) = 19.01, p < .01$)。そのため残差分析を行った結果、図6に示す結果が得られた。

図6からは、写実風絵本を読み聞かせられている場面では【説明する】と【なりきる】の出現率が高い傾向がみられ、【尋ねる】と【否定する】の出現率が有意に低く、【他児の意見の受けとめ】の出現率が低い傾向が見られたことがわかる。一方、アニメ風絵本を読み聞かせられている場面では、【尋ねる】と【否定する】の出現率が有意に高く、【他児の意見の受けとめ】の出現率が高い傾向が示された。また、【説明する】と【なりきる】の出現率が低い傾向がみられた。

4. 考察

調査2の結果は、4歳児の共感性を育むのは、写実風絵本であることを示唆していると思われる。そ

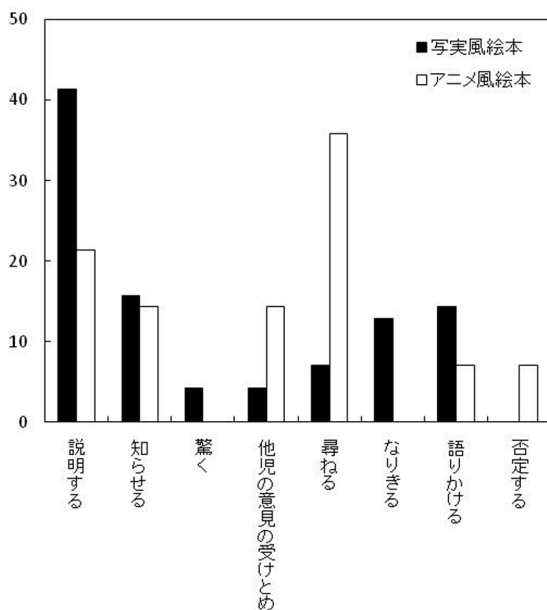


図6 各絵本の読み聞かせ場面におけるカテゴリーの出現率

の理由は、写実風絵本を読み聞かせられている最中に出現したカテゴリーが、4歳児が共感を働かせていることを示すものであると考えられるためである。すなわち、写実風絵本では【説明する】と【なりきる】が他のカテゴリーよりも多く出現する傾向があることが示された。【説明する】とは、絵本の登場人物や内容についての発言である。このカテゴリーが写実風絵本の読み聞かせ場面で多く出現したのは、アニメ風絵本を読み聞かせられた時よりも、4歳児が絵本の内容に引き込まれ、集中していることを示していると思われる。また、【なりきる】は、「ガウガウ」など登場人物になりきることによって生じる発話である。このカテゴリーもまた、絵本の内容に引き込まれ、自分と登場人物を同一視していることを示していると考えられる。

一方、アニメ風絵本では、【尋ねる】と【否定する】、【他児の意見の受けとめ】の出現率が高い傾向が示された。【尋ねる】とは、絵本の内容について他児に尋ねたり、確認をとったりする発言である。このカテゴリーがアニメ風絵本の読み聞かせ場面で多く出現したのは、写実風絵本を読み聞かせられた時よりも、4歳児が絵本の物語を十分に理解できていないことを示していると思われる。そのため、近くにいる友だちに「これはどういうこと?」というような問いかけをしていると思われる。

また、この【尋ねる】の出現が多いことと関連して、【他児の意見の受けとめ】の出現率が高まったと思われる。さらに、【否定する】は絵本の内容や絵を否定する発言である。このカテゴリーが有意に多く出現したことは、写実風絵本と比べて、4歳児はアニメ風絵本の内容や挿絵を否定的に捉えており、内容に引き込まれにくいことを示していると思われる。

以上の結果から、4歳児が絵本の内容を深く理解し、登場人物に共感することができるのは、挿絵の現実味が高く、明るさや派手さ、単純さが低い写実風の『オオカミと七匹の子ヤギ』であることが示唆された。このことから、これらの特徴をもった挿絵によって構成された写実風絵本は、4歳児の共感性を育むものであると考えられる。

IV 総括

本研究からは、アニメ風の挿絵の『オオカミと七

匹の子ヤギ』を読み聞かせられている時よりも、写実風の挿絵の『オオカミと七匹の子ヤギ』を読み聞かせられている時に、4歳児は多く言葉を発し、絵本の登場人物に共感する傾向があることが明らかになった。

このような本研究の結果から、保育者は保育のねらいに応じて、そのねらいの達成を導く適切な挿絵の絵本を選択することが求められるといえるだろう。たとえば、本研究で示されたように、もしも保育者が幼児の共感性を育むことをねらいとするのであれば、アニメ風の絵本ではなく、写実風の絵本を選択することが適切であると思われる。

ところで、このような結果が得られたものの、本研究の結果からは、アニメ風の挿絵の絵本が持つ機能もまた、重要であることが示唆される。すなわち、アニメ風の『オオカミと七匹の子ヤギ』を読み聞かせられている時、4歳児は、友だちに対して絵本の内容について問いかけるなどしていた。このことから、アニメ風絵本は4歳児のコミュニケーションを促進する効果を持つと考えられる。

以上から、保育者は、挿絵の印象が異なることによってその絵本が育む子どもの心情、意欲、態度が異なることを認識し、保育のねらいに応じて、適切な絵本を選択する必要があると思われる。

文献/References

- 浅川潔司 1993 友だちの気持ちの思いやる心を育てる－共感性・感受性を高める 児童心理, 47 (7), p611-616.
- 古屋喜美代 1996 幼児の絵本読み場面における「語り」の発達と登場人物との関係 2歳から4歳までの縦断的事例研究 発達心理学研究, 7 (1), 12-19.
- グリム・グリム (Grim, J & Grim, W), 高橋健二 訳『グリム童話集 世界の名作全集11 オオカミと七匹の子ヤギ』(国土社, 1990)
- 平田昭吾 (文) 井上智 (絵)『おおかみと七ひきのこやぎ』(ポプラ社, 1982)
- ホフマン (Hoffman, F), 瀬田貞二訳『おおかみと七ひきのこやぎ』(福音館書店, 1967)
- 文部科学省 2008 『幼稚園教育要領』文部科学省
- 中澤 潤・中道圭人・大澤紀代子・針谷洋美 2005 絵本の絵が幼児の物語理解・想像力に及ぼす影響 (I. 教育科学系) 千葉大学教育学部研究紀要, 53,

193-202.

- 大橋正夫・三輪弘道・平林進・長戸啓子 1974 写真による印象形成の研究 (2): 印象評定のための尺度項目の選定 名古屋大学教育学部紀要. 教育心理学, 20, 93-102.
- オットー (Otto, S), 矢川澄子訳『おおかみと七ひきの子やぎ』(評論社, 1980)
- 大和田攝子・阪 永子 2007 動的家族画における被虐待児の描画特徴: 印象評定を用いた分析研究紀要. 人文科学・自然科学篇, 48, 1-15.
- Parten, M. (1932) Social participation among pre-school children. Journal of Abnormal and Social Psychology, 27, 243-269.
- 鈴木美穂・行場次朗 2002 感性印象に関与する因子の感覚関連度の対比分析 電子情報通信学会技術研究報告. HIP, ヒューマン情報処理, 101 (698), 31-38.
- 高橋あゆみ 2006 共感性と絵本の読み取り方との関連性について (2005年度 卒業論文) 臨床教育心理学研究, 32 (1), 73.
- 田中あかり・岩立京子 2006 母親の幼児に対する「言葉かけ」が幼児の共感性に及ぼす影響: ポジティブ感情の共感に注目して 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, 57, 63-70.

(2011年5月19日受付)

(2011年7月20日受理)

